

1 日時	平成28年7月29日（金）	13:00～16:00
2 会場	いかるがホール（生駒郡斑鳩町興留10-6-43）	
3 参加者	56人（教職員、地域コーディネーター、行政職員等）	
4 内容	13:00～ 13:05	開会挨拶
	13:05～ 13:30	セミナー 「地域と共にある学校づくり」について 人権・地域教育課 中島 憲作
	13:30～ 14:30	講演 「学校と地域で探る～子どもの学ぶ力を育むには～」 大手前大学総合文化学部 准教授 柏木 智子
	14:40～ 15:50	ワークショップ熟議
	15:50～ 16:00	閉会

5 講演概要

◇なぜ学校と地域との連携が必要なのか

- ・多様な個としての子どもの育成には、教師のみの力による教育活動では不十分な側面が出てくる。
- ・多様な学びの保障…現実社会で生きて働く力としての「学力」も必要。（暗記型学力から「生きる力」としての学力へ）
⇒様々な人によるサポートの必要性

◇学校と地域の関係の歴史の変遷

- ・1970年代以降の連携論の再興…
子どもをめぐる問題の多発と画一的管理教育への批判
- ・1985年「開かれた学校」への答申…
国際化、情報化、生涯学習体系への移行
閉鎖的学校教育への批判と子どもをめぐる問題への連携による対応
- ・2015年「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（中央教育審議会答申）…

コミュニティ・スクールの推進と学校教育・地域づくりへの主体形成
→過疎化・人口減少…地方の危機感
→学校が軸になって地域を作っていかなければならない時代に！

◇ つながりによる教育活動

ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）

= 「調整された諸活動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、互酬性規範、ネットワークといった社会組織の特徴」

- ・つながりの豊かな地域・学校では…（教育効果）
☆高校中途退学率・校内暴力発生率・いじめ発生率が低い
☆学力・学習意欲にプラスの影響
☆子どものストレスの減少→子どもの他者への信頼性・共感性が高まる→自分を大切にしながら他者も尊重…等
- ・ソーシャル・キャピタルの諸形態（結束型と橋渡型）の長短と各学校・地域のつながり例
→それぞれのよいところを取り入れつつ、垂直的ネットワークから水平的ネットワークへ

◇学校と家庭、地域の協働による教育～「協働」の要素～

連携する組織及び個人の対等な関係／具体的な共通課題（目標）／パートナー全員が対等な受益者、責任者／連携する人々の有機的つながり



6 感想

- ・つながることの大切さから、つながり方を見直すことの大切さを知り、新しい発見がありました。連携することで得られる教育効果について興味深かったです。
- ・（ワークショップでは）学校・家庭・地域それぞれでは解決できない課題が多いと感じました。連携することの重要性を認識しました。